おだしか健康レポート

ODASHIKA HEALTH REPORT

— 11 —

あんざい・よしみつ
1967年生まれ、小田原市出身。日本歯科大学歯学部卒業。

抜歯のはなし

診療の場で度々「歯を抜かれた」という話を聞きます。果たして歯は抜かれるものなのでしょうか。今回は抜歯についてお話しします。

① 歳をとると歯を失うという誤解

小田原歯科医師会では、様々な教室などで多くの住民と触れ合う機会があります。その時の会話の中で、ほとんどの人が歳をとると歯を失うと思っており、ある意味では常識となっています。果たして、歳をとると歯はなくなるものなのでしょうか。

日本のみならず世界中で膨大な数の歯が抜歯されている現実があります。世界の隅々までひとつ残らず把握している訳ではありませんが、「加齢」や「老衰」が原因で抜かれている歯は1本もありません。日本の医療保険制度はもちろん他の国であっても医療制度は疾病に対するものであり、年齢を理由にする抜歯はあり得ない話になります。それでは、なぜ歳をとると歯がなくなる感覚が広がっているのでしょうか。

② 抜歯の位置づけ

人類は有史以来歯痛に悩まされた記録が少なからずあります。様々な歯痛への対応の歴史もありますが、19世紀に入るまで歯痛への根本的な対応は抜歯でした。19世紀に入ると歯を抜かずに歯髄を取り除く方法が考案され、歯痛を取り除くための抜歯は徐々に少なくなっていきます。しかし、むし歯の項で述べましたように歯髄を取り除いて失活した歯は、生きている歯に比べるといずれ抜歯にいたる可能性は格段に高くなります。

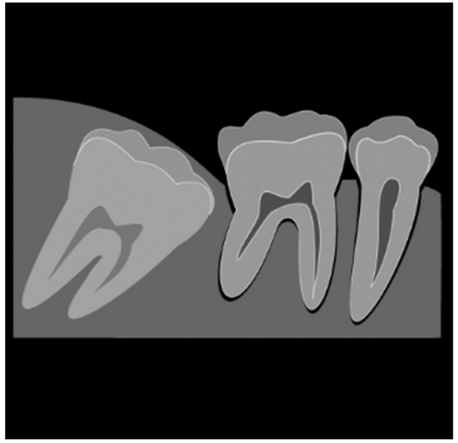
また、歯周病の悪化にともない、ひどい腫れや強い痛みが出ることもむし歯と同じように人々を悩ませてきました。

このように、歯や歯の周囲といった口の中に起こるトラブルの多くは痛みを伴うものであり、それは抜歯により解決してきた長い過去があります。そのため口の中の医療進歩が大きく遅れた側面がありますが、その時点で治療が叶わない場合行うのが抜歯になります。

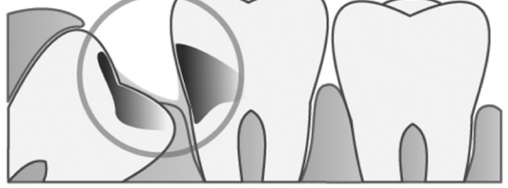
③ 智歯（親知らず）を抜く

同じように智歯は抜くものであり、抜歯後は腫れるものと信じている人は少なくありません。しかし、智歯であることを理由に抜歯することはありません。歯が噛み合い機能しているならばもちろんのこと、全く萌えてこない場合でも智歯そのものや周囲に影響がなければなんら問題はありません。（図1、2）一番奥に位置するため清掃が行き届かず智歯や隣の歯のむし歯（図3）や智歯周囲炎（図4）など、治療をしても健康の維持が難しい場合に抜歯という手段をとることになります。また、10代後半の成長期に経過観察をすることで、将来的な問題を予測し予防的に抜歯を行うことがあるのも智歯の特徴になります。

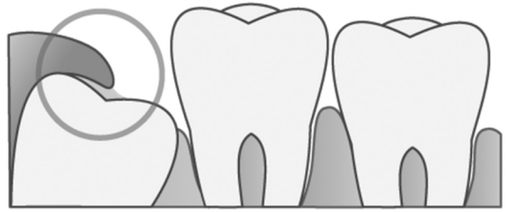
（図1）智歯（親知らず）の模式図



（図2）抜歯の必要のない智歯のレントゲンの模式図



（図3）智歯が原因でできるむし歯の模式図



（図4）智歯周囲炎の模式図

④ 歳をとると歯がなくなる現実

しかし、現実の問題として歳をとると歯がなくなっていくという現実があります。また、むし歯や歯周病を治すことができれば歯を失う機会は激減することも事実になります。むし歯や歯周病の項で説明したように、一度治した後の健康な状態を維持していくのが難しいことに加え、人生100年時代には歯が脆くなるなっていく現象に対応する必要が出てくるため定期的な受診が有効になります。

まとめ

歯は抜かれるものではなく、治療ができない場合やそのままでは害が大きくなる場合に行うものになります。一口に歯を失うといっても、その場所によって日常生活への影響は異なります。また、稀ではありますが嚢胞や腫瘍など歯や歯周組織の問題以外での抜歯もあります。口腔を俯瞰できるレントゲンで状況を把握することも有効な手段となります。

ポイント

- 治療ができない時に行うのが抜歯
- 智歯であっても抜歯には理由がある
- レントゲンを用いた経過観察は有効

小田原歯科医師会事務局

TEL. 0465(49)1311
FAX. 0465(49)1551

〒250-0875　小田原市南鴨宮2-27-19

一般社団法人小田原歯科医師会は、小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町の歯科医師会会員で構成されています。このホームページでは、一般社団法人小田原歯科医師会が主催、後援または協力している事業とそれに関する情報やお知らせを紹介しています。

https://odawara-dent.or.jp/

小田原歯科医師会　検索

歯と口腔に関わるご相談
往診・歯科訪問診療の
ご相談は

一般社団法人小田原歯科医師会
地域支援歯科連携室
まで

TEL/FAX 0465(49)1319
月～金
9:00～12:00 13:00～17:00